

ドイツ語（初級A）／Aドイツ語 第13回 従属の接続詞

範囲：教科書第8課C（S.34-35）

《今回の基本例文》

46. Ich kann keine Ferienreise machen, weil ich sparen muss. (CD48-2)

私は節約しなければならないので、休暇の旅行はできない。

[従属の接続詞を用いた副文（主文先頭型）]

47. Wenn du es mir morgen zurückgibst, leihe ich dir das Buch. (CD49-3)

明日に返してくれるなら、私は君にその本を貸すよ。

[従属の接続詞を用いた副文（副文先頭型）]

48. Wissen Sie, wer der Herr da ist? (CD50-1)

そこにおいで紳士がどなたか、あなたをご存じですか？

[間接疑問文]

☆ 従属の接続詞

C. 従属の接続詞 (S.34)

1 従属の接続詞

◇ ドイツ語でも英語と同じく、**名詞節、副詞節、関係代名詞節**などの**副文**が存在し、名詞節と副詞節は**従属の接続詞**に、関係代名詞節は関係代名詞（⇒教科書S.60）に導かれる。

* 言うまでもなく、接続詞には並列の接続詞（⇒教科書S.25）と従属の接続詞がある。

◇ 従属の接続詞としては、以下のものを覚える必要がある。

機能	従属接続詞	英語	意味
副詞節	als	when	～したとき
	bevor	before	～する前
	bis	till, until	～するまで
	da	because, since	～する以上
	damit	so that	～するように
	indem	while	～しながら
	obwohl	though, although	～にもかかわらず
	sobald	as soon as	～するや否や
	während	while	～するあいだ
	weil	because	～するので
名詞節	wenn	when, if	～するとき、～するなら
	dass	that	～すること
	ob	if, whether	～するかどうか

◇ dass と ob は**名詞節**を導く。dass 節（「～すること」、that 節に相当）や ob 節（「～するかどうか」、if 節や whether 節に相当）は、名詞と同じく文全体の主語や目的語になりうる。

◇ それ以外のすべては**副詞節**を導く。

・理由をあらわす副詞節を導く従属の接続詞には da と weil があるが、da は聞き手も知っている理由を言うのに対し、weil は一般に論理的な因果関係を言う。

・時をあらわす副詞節を導く従属の接続詞には als と wenn があるが、現在および未来には wenn を、過去には als を用いる。wenn の場合、「～するならば」という条件文（if 節に相当）もつくる。

補足 従属の接続詞を用いた副文の語順

定動詞後置の原則 = 定動詞を副文末に持ってくる

◇ 従属の接続詞を用いた副文では、定動詞は文末に置かれる。このため、主語－目的語－動詞という、日本語に近い語順が現れる。図示すれば、

文頭	文中	文末
接続詞	…	動詞（現在人称変化）

◇ 主文を副文に転換すると、以下の通りになる。

Er spricht Deutsch.

彼はドイツ語を話す。

→ Weil er Deutsch spricht,

彼はドイツ語を話すので、...

* 定動詞を副文末に移動する。

Er kann Deutsch sprechen.

彼はドイツ語を話すことができる。

→ Weil er Deutsch sprechen kann,

彼はドイツ語を話すことができるので、...

* 語法の助動詞を含む文の場合、定動詞である助動詞を副文末に移動すればよい。

◇ 副文内の定動詞が分離動詞である場合、分離動詞も文末に移動するが、

・前綴りと基礎動詞は分離せず一続きに書く。

・基礎動詞は主語に合わせて人称変化する。

Er bringt eine Flasche Wein mit.

彼はワインを 1 ビン持ってくる。

→ Weil er eine Flasche Wein mitbringt,

彼はワインを 1 ビン持ってくるので、...

* ここで mit と bringt のあいだにスペースを入れてはいけない。

◇ これまで登場した語順を整理すると、

主文	定動詞第 2 位：定動詞は 2 番目に。
主文（決定疑問文）	定動詞第 1 位：定動詞は 1 番目に。
副文の内部	定動詞後置：定動詞は副文末に。

補足 主文と副文の位置関係

主文: 定動詞第 2 位

副文: 文の 1 要素 (名詞節なら 1 つの名詞、副詞節なら 1 つの副詞) として扱う

- ◇ 副文を含んだ文の場合、文全体 (=主文) に副文を組み込むかたちとなる。そのとき、
- ・名詞節: 名詞 1 つと同じ
 - ・副詞節: 副詞 1 つと同じ
 - ・主文では定動詞第 2 位の原則が働く

という扱いになる。

- ◇ **名詞節**を主語とする文で、主語を文頭に出した場合、第 2 位にはもちろん主文の定動詞が来る。

i) **Dass** du endlich kommst, freut mich sehr.

君がとうとう来てくれることが、非常に私を喜ばせる。

* Dass du endlich kommst 全体が主語、名詞 1 つと同じ扱い。

** freuen は他動詞、「(4 格) を喜ばせる」。

- ◇ ただし、名詞節を主語とする文では、副文を先取りする**仮主語 es**を用い、名詞節自体はうしろにまわすこともできる (英語の仮主語 *it* と同じ)。 (⇒教科書 S. 67)

i) **Dass** du endlich kommst, freut mich sehr.

= i) **Es** freut mich sehr, dass du endlich kommst.

君がとうとう来てくれることが、非常に私を喜ばせる。

* 下の文 (教科書 S. 35 の例文 i) の本来の主語は、dass du endlich kommst という名詞節にあたる。

** 長い名詞節であればあるほど、仮主語を用いる文体が好まれる。

- ◇ **副詞節**を文のうしろに回す場合は、単に主文と副文を読点で区切れればよい (英語と同じ)。

ii) Er wohnt auf dem Land, weil es dort ruhig ist.

彼は田舎に住んでいる、そこは静かだから。

* es は音などを示すときの主語。英語の *it* と同じ。 (⇒教科書 S. 58)

iii) Ich schreibe dir sofort, wenn ich in Paris ankomme.

君にすぐに手紙を書くよ、私がパリに着いたら。

* この schreiben は自動詞で、「(3 格) に手紙を書く」。

** ankomme には、副文内の定動詞が分離動詞である場合、前綴りと基礎動詞は分離せず一続きに書く規則が適用されている。

- ◇ 一方、副詞節を文頭に出す場合、副詞 1 つが文頭にきたのと同じことになるので、第 2 位には主文の定動詞を持って来なければならない。

Wir bleiben zu Haus, wenn es regnet.

= **Wenn** es regnet, bleiben wir zu Haus.

雨が降るならば、私たちは家にいます。

* es は天候、気象を示すときの主語。英語の *it* と同じ。regnen は英語の *rain*。 (⇒教科書 S. 57)

2 間接疑問文 (S. 35)

◇ 英語と同じく、ドイツ語でも疑問詞を用いた**間接疑問文**をつくることができる。ただし、**間接疑問文**は名詞節であり、副文なので、その語順は定動詞後置となる。

* 使用可能な疑問詞のまとめは、授業第 3 回配付資料 S. 6 を参照。

◇ 単なる疑問文を間接疑問文に転換すると、以下ようになる。

Was ist er von Beruf?

彼はどんな職業についているのですか (=彼は職業に関して何者ですか)。

* 単なる疑問文 (主文) では、ist の位置は定動詞第 2 位。

→ Ich **weiß** nicht, **was** er von Beruf **ist**.

私は知らない、彼がどんな職業についているのかを。

* 間接疑問文 (副文) では、ist の位置は定動詞後置。こちらの主文は ich weiß nicht...になる。

Wo wohnt Fritz jetzt?

フリッツはいまどこに住んでいるんですか。

→ Ich **weiß** nicht, **wo** Fritz jetzt **wohnt**.

私は知らない、フリッツがいまどこに住んでいるのかを。

◇ 前置詞と疑問代名詞の融合形 (⇒教科書 S. 27) も、間接疑問文を導くことができる。

Womit fährst du?

君は何に乗っていくんですか。

→ Ich **weiß** nicht, **womit** du **fährst**.

私は知らない、君が何に乗っていくのかを。

* なお、決定疑問文を間接疑問文にする場合、ob 節 (英語の if 節にあたる) を用いることになっている。

Spricht er Deutsch? → Ich **weiß** nicht, ob er deutsch spricht.

練習問題の補足

Übung 1 (S. 35)

1. Schluss machen は「(仕事などを) 終わりにする」の意味の熟語。um Mittag の um は時刻を表す用法。 (⇒教科書 S. 37)

3. leihen は「〈3 格〉に〈4 格〉を貸す」、zurückgeben は「〈3 格〉に〈4 格〉を返す」。

Übung 3

2. **welcher** は「どの、どちらの」をあらわす疑問代名詞で、名詞を修飾する (英語の *which* に相当)。前置詞と併用されることもあり、mit welchem/welcher/welchen ~ で「どの~によって」の意味になる (変化形は dieser 型)。 (⇒教科書 S. 42)

3. an jn./et⁴. denken は既出。 (⇒教科書 S. 28)

連絡先など

教員のメールアドレス: tokan@nifty.com 授業のウェブサイト (進捗表示、配付資料あり): <http://hhasegawa.la.coocan.jp/lecture/>